

東北農業の伝統的特性

... 1960年代まで、関東以西と比べて

1) 稲作主産地 ... 日本海側, 大崎平野

- ・大平野 + 雪解け水 ⇒ 水利施設さえ完備すれば, 大規模な稲作が可能

5) 農閑期に出稼ぎ

- ⇒ 兼業農家が多数 ⇒ 農業生産性向上の努力が停滞的

2) 低い生産性 ... 特に北部太平洋側

- ・冬季積雪と寒冷のため, 二毛作困難
- ・やませ・冷夏・霜害 ... 冷害のリスク
- ・新開地の多さがさらにリスクを高める。

6) 小作・地主 ... 特に稲作地帯

- ・不安定な作柄, 土地への執着 ⇒ 大地主

3) 明治以降, 日本の食糧生産基地

- ... 農業が東北の主産業に

7) 商品作物, 複合部門

- ・扇状地 ... 養蚕(山形, 米沢, 福島盆地)
- ・寒冷地 ... りんご(津軽), 馬産(南部)
- ・山間地 ... 葉タバコ(阿武隈, 北上)

4) 「自給的」性格 ... 特に稲作地帯

- ・稲は日本人の主食作物のため, 全国各地で自給的に栽培
- ・長きにわたって領主・藩・政府の管理下にあり, 農家に商品として「売る」というセンスが醸成されにくかった。
- ・冷害危険地域では, コメは自給がせいっぱい。

※東北は国内他地域より, 災害リスクが特に「高い」わけではない。
... 西日本では風水害, 干ばつのリスク

耐冷品種の開発

- ・東北の農民はみな革新性に乏しい人々だったかという, 決してそうではない。
- ・公的試験機関が開設される前の明治・大正期は, いわゆる「篤農家」と呼ばれる人々が技術開発を担う。
- ・そうした技術情報は, 各地の**種苗交換会**を通じて伝播した。
- ※秋田県の**種苗交換会**は, 1878(明11)年に始まり, 今日まで続く。

・このうち, 稲の**耐冷品種**の開発の功労者は, **庄内の農民・阿部亀治**。

- ・彼が生まれたのは, **最上川**が**庄内平野**に流れ出す場所。日本海側にありながら, **峡谷**から吹き出す局地風「**清川だし**」の**強冷風**に悩まされてきた。
- ・1893年, 彼は**田んぼ**の取水口近くにありながら枯れない**稲**から, **耐冷性**に優れた品種を選抜。これは「**亀ノ尾**」として評判となり, 東北各地に普及。
- ・「神力」「愛国」とともに「**三大品種**」と呼ばれる。

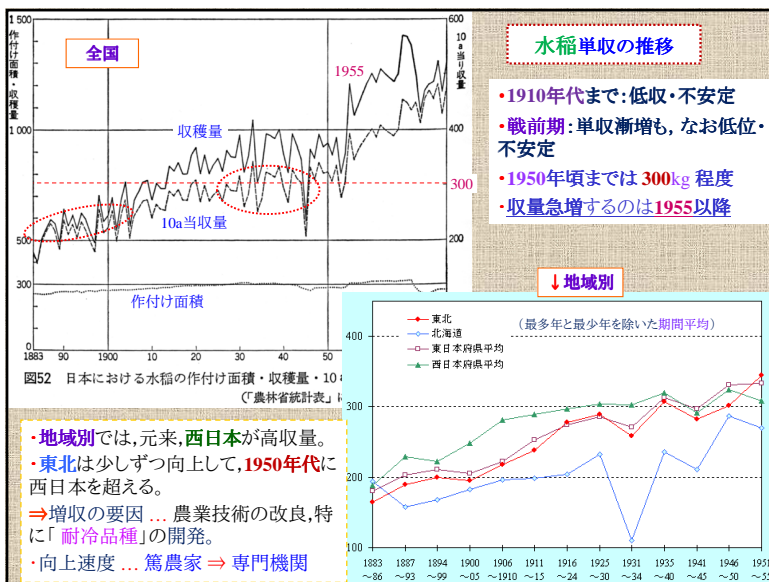
<http://ss.maes.affrc.go.jp/reigai/zusetu/inasaku/jittai/syuryotokei.html>



阿部亀治
(1868~1928)



顕彰碑 (庄内町小出新田)



- ・「**亀ノ尾**」は, その後多くの**後継品種**の親として遺伝子を継承。

- ・1914(大正3)年, 秋田県農事試験場**陸羽支場**(大曲)で, 「**亀ノ尾4号**」と「**陸羽20号**」の交配による新品種の開発に着手。
- ・1921年, 傑作品種「**陸羽132号**」を開発。耐冷の上, 多肥料栽培に耐える**多収量**(当時としては)品種として, 「**亀ノ尾**」栽培地帯に普及。
- ⇒東北の**稲作**の安定性と, **東北産米**の**市場評価**の向上に貢献。

- ・1950年代からは各県の農業試験場での開発競争が活発化。
- ・青森・岩手は**耐冷性**, 宮城・秋田は**食味**と収量を追及。

- ・1953年, 宮城県農事試験場**古川**分場で, 「**陸羽132**」の後継品種から, **耐冷性**には劣るが, **食味**と**収量**に優れた傑作品種を開発。
- ・「**ササニシキ**」と命名されたこの稲は, その後, 長きにわたって南東北の主力品種に。

青森県農事試験場・藤坂試験地

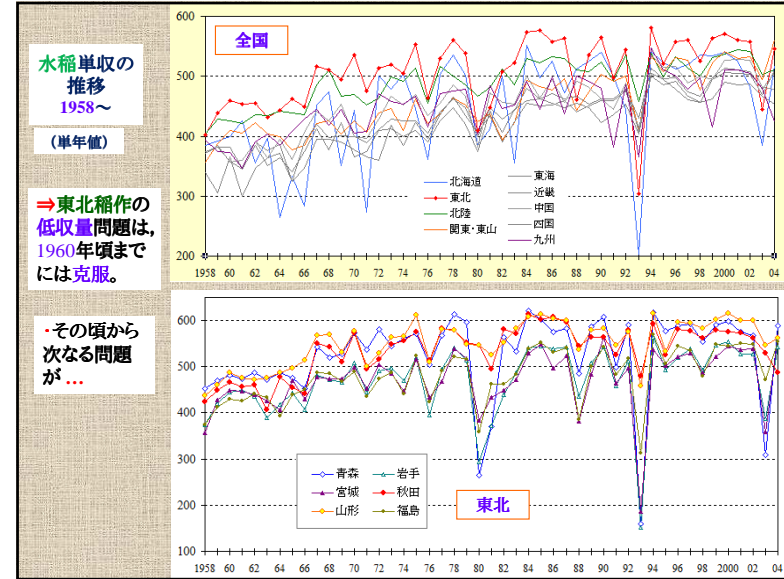
- 相次ぐ冷害・凶作への対策として1935年に設置された県の施設。
- 秋田県農事試験場から赴任した田中稔は、新開地の劣悪な条件下で冷害のメカニズムを解明して、1949年、耐冷・高収量の「藤坂5号」を開発。
- 寒冷地稲作のイメージを一新させ、戦後の食糧難にも貢献。




藤坂稲作部で育成された主な品種



品種名	育成年	品種の特徴	最大普及面積(ha)
藤坂5号	1949	東北における近代的品種のさきがけ。当時としては画期的な短穂種重型の早生多収品種であった。	66,200
トワダ	1956	藤坂交配の育成品種第1号	92,000
オオトリ	1959	米作日本一の収量記録を持つ多収品種。藤坂の育成品種としては最も晩生	29,400
フジミノ	1960	「集団育種法」で育成された最初の品種で、作付け面積1位になったこともある。	214,000
ヨネシロ	1963	山形県で交配され、藤坂交場で育成された。当時としては最も病抵抗性が強かった	50,400
レイメイ	1966	世界初の放射線による突然変異育種による品種。フジミノを短穂化	141,000
ムツホナミ	1970	レイメイの食味を改良した多収品種	9,769
アキヒカリ	1976	レイメイの品質を改良した安定多収品種。日本育種学会賞受賞に輝く	119,900

<http://www.amori-itc.or.jp/index.php?id=1048>




苗代技術の改良

- 冷夏回避のためには、田植えを早めて生育期間を長くできれば良いことがわかっていたが、問題は苗づくり。
- 1950年代後半、長野県軽井沢の一農民が生み出した苗代技術の普及がそれを可能にした。

保温苗代(泉区朴沢)

より近代的な施設育苗(長喜城育苗組合)



保温折衷苗代 (川田(1965))

<http://ss.tnaes.affrc.go.jp/reigai/zusetu/sechunawashiro.html>

一方、遅く植えて登熟期の冷夏を回避する方法も ⇒ 早稲, 中生, 晩生の組み合わせ

